

熱が出た(38℃以上)

熱が高いと脳への影響を心配する人がいますが、40℃ぐらいの熱があっても脳への影響はありません。まずは水分補給・安静・体を冷やすなどを行い、状態を観察しましょう。それでも様子がおかしいときは、医療機関を受診しましょう。

子どもが生後3ヶ月未満

すぐに大和市救急医療機関を受診しましょう。

子どもが生後3ヶ月以上

1つでも当てはまった

- ① ぐったりしている。
- ② 顔色が悪いまま。
- ③ 水分が摂れず、おしっこが出ない。
- ④ いつもと泣き方が違う。
- ⑤ 呼吸がおかしい。
(うなる。鼻の穴がピクピクする。胸の下がペコペコへこむ。)
- ⑥ 意識がおかしい。
- ⑦ 下痢や吐く回数が多い。
- ⑧ 頭痛がひどい。



1つも当てはまらなかった

時間外なら様子を見て、通常の診療時間にかかりつけ医へ。不安な場合は電話相談を。
ただし症状が悪化したら、すぐに救急医療機関を受診しましょう。

★ こんな誤解、していませんか？

Q1 生後間もない赤ちゃんは風邪をひかない？

→いいえ。風邪をひくことはあります。

ただし3ヶ月未満の赤ちゃんは、風邪と重い病気の見分けが難しいので、38℃以上の熱が出たときには受診しましょう。

Q2 高い熱が続くと、頭がおかしくなったり、肺炎になったりしないの？

→そんなことはありません。熱はあくまでも病気の症状のひとつです。

◆ 38℃以上の熱が出た場合には、以下の点に注意して対処するとよいでしょう。

- ① 水分をこまめにあげて、寒がらなければ頭を冷やしましょう。ただし熱冷却シートは、赤ちゃんには、はずれて鼻をふさぎ、窒息などの事故を起こすことがあるので注意をしましょう。氷まくらで冷やすのが効果的です。
- ② 解熱剤は、水分が摂れている場合や、眠れている、機嫌がさほど悪くないようなときには、控えめにしましょう。高熱は、身体がウィルスや細菌と闘っている証拠です。熱の出始めは解熱剤が効かないことがあります。解熱剤は、むしろ高熱が続くときに使う方が効果的です。
- ③ 乳幼児の体温は、環境温度や衣服の着せ方に影響されます。理想的な室温は夏 26℃前後、冬 20℃前後です。震えているとき以外は、着せすぎや布団の掛けすぎに注意しましょう。
- ④ 外気、扇風機、エアコンの風が直接体に当たらないようにしましょう。